



7月新着図書案内

中旬版
富山中部高校図書館



【シンギュラリティ】とは？

日本語では「技術的特異点」と訳され、「技術が急速に発達し、機械が人間を超える日」を意味。命名者はレイ・カーツワイル。彼の著書『ポスト・ヒューマン誕生』（本校蔵書あり）今年度の読書・教養講座（講師・富山県立大学平原達也教授）において取り上げられていました。興味のある人は併せて読んでみてください。

シンギュラリティは怖くない

ちょっと落ち着いて人工知能について考えよう
中西 崇文 著

人工知能は、失業者を増やしたり、人類を減ぼしたりするのか？ 2045年に「シンギュラリティ」が訪れ、突如コンピュータが人間の知能を超えるのか？ 人工知能を日常的に使用しているデータサイエンティストが、情報学の歴史的経緯をふまえ、人工知能と人間社会の過去・現在・未来を解説。この上なく腑に落ちる、人工知能論。



脳はなぜ都合よく記憶するのか

記憶科学が教える脳と人間の不思議
ジュリア・ショウ 著

人間の記憶が間違っ形成される過程を明らかにし、記憶の曖昧な目撃情報によって冤罪の危機にあった多数の容疑者の無実を証明してきた著者が、脳が記憶を都合よく作り替えたり、体験もしていない出来事を知っているかのように記憶したりする不思議なメカニズムの存在理由を語る。



最高の空港の歩き方

齊藤 成人 著

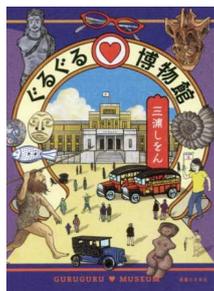
空港がアミューズメントパーク化している。グルメやショッピングに限らず、美術館、温泉、そして工場見学ができる空港も出てきた。これまで想像もしなかった空港の楽しみ方から空港ビジネスの未来まで、運輸業界を長く担当し、200近くの空港を訪れたという著者が、知られざる空港の世界を案内する。空の旅が楽しくなる一冊。



東京のきつねが大阪でたぬきにばける 誤解されやすい方言小辞典

篠崎 晃一 著

著者が編修代表を務める『例解新国語辞典』の“方言”欄を充実させ、イラストもまじえ詳しく解説。共通語と同じ語形だが、じつは地域独特の意味があるという項目を五十音順に181項目掲載。学校方言や食の方言、交通安全・防犯対策で活躍する方言など、テーマ別のコラムも20点掲載。



ぐるぐる♡博物館

三浦 しをん 著

博物館が大好きな著者が、興味のおもむくまま、全国のおもしろそうな博物館を訪問。まじめに、ときに妄想を膨らませつつ、お宝や珍品に迫る。「なぜこんなにたくさん集めなすった!？」という著者の素朴な疑問に答えてくれるのは、慎み深くも超キャラ立ちした学芸員さんたち。さまざまな世界の魅力を著者の視点を通じて愉快地楽しめる書。

図書館からのお知らせ

7月20日(木)は
貸出冊数の制限を
無くします。
気になっていた本や
普段読めなかった長編を
読んでみては？